

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年5月18日

株式会社一榮食品

一榮食品は1992年の創業。おつまみ業界の中では比較的后発でありながら、海産珍味を中心に生産品目は千以上に及び、生産品目の多彩さで業界一を自負する。特に味でのおもてなしを何より大切にする代表取締役の河合大輔氏に話を聞いた。

Company Data

社名：株式会社一榮食品

代表者：河合 大輔

住所：春日井市十三塚町3番地2

電話：0568-56-0181

URL：<http://www.ichieifoods.co.jp/>

紹介金融機関：中京銀行



後発でありながら商品数トップクラス

当社は1992年に創業しました。創業当初は海産珍味などを仕入れ、袋詰めや個包装を行い、オリジナルの詰め合わせ商品などを製造していました。1996年に九州支社に工場を建ててからは、原料加工の内製化も始めました。

現在は、素材系珍味から駄菓子、どらやきなど幅広い商品ラインナップを揃えており、お客様に感動を与える新商品づくりを目指しています。生産品目は累計千以上あり、商品数ではおつまみ業界トップクラスだと思います。多品種生産を可能にするため、当社ではすべて営業部に商品開発の権限を持たせて、時代の流れを感じとった商品を開発し、商機を逃さないようにしています。

先代の思いは「顧客に笑顔を」

ここまで品目が増えたのは先代社長が「思い付き」の豊かな人だったからです。九州支社の工場新設もそうですが、顧客の要望をできる限り何でも聞く、という先代の方針を受け継ぐうちに、生産品目も増えていきました。また、先代は人とのネットワークを大切にする人でした。



例えば、2011 年の東日本大震災で東北のお得意様が被災された際は、先代がお得意様を気にされて、常務と私が救援物資を届けに行きました。こうした先代の人柄から、当社を応援してくれる人も多かったと思います。

コロナ禍が輸出ルート確立の契機に

2020 年 1 月に私が代表取締役役に就任した同時期に、新型コロナウイルスが流行し始めました。主力商品であるホタテ加工品などの高級おつまみは、インバウンド需要がほとんどでしたので、コロナ禍で売上の増大がほぼストップし、一時は全体の売上も 2 割以上減少になりました。

この苦境を乗り切るために力を入れたのが、新販路開拓による海外輸出です。それ以前から新規開拓には取り組んでおり、海外向けの展示会にも出展していました。主に台湾、香港、中国などのアジア圏に力を注いでいたのですが、幸いにも米国から現地中国系住民向けの大型発注があったことで業績を回復することができました。

また、当社は GW や年末など大型連休前が繁忙期で、年間の売上変動が非常に大きいことが課題でしたが、海外輸出によって、長年の課題だった売上の平準化に繋がり、安定した生産態勢が取れるようになりました。コロナ禍による社会環境の変化は、「この先も何が起こるか分からない」という危機意識を持つための、大きな教訓となりました。

これからも愛情がこもった味を通じて

当社は今年、創業 30 周年を迎えましたが、生前の先代と計画を練っていた周年式典などはコロナ禍で全て取りやめになりました。また、先代が旅行好きだったこともあり、福利厚生イベントとして毎年、パートさんも含めて全社員で日帰り旅行に出掛けていたのもコロナ禍以降全て中止となりました。今後、機会をみて復活させたいと考えています。



私が大切にしている言葉は、仏典「和顔愛語」をもじった言葉の「和顔愛味」です。和顔愛語は、愛情を込めた言葉で接すれば人は和やかな顔になる、という意味です。これを和顔愛味として、愛情がこもった味の提供を通じて、多くの人に和やかになってもらえるようこれからも取り組んでいきます。